

借金経済学

政府はインフレ政策を掲げているが、一向に進まない、何故、その様なことをするのか、世の中は、お金がどこかに集約され、有り余ったお金は銀行に預ける。ところが金利がゼロ近くなると、持っているお金が目減りするため、その対策のために、株を買ったり金や不動産や場合によったら、政府の発行する国債を買う。利息がゼロだと、お金を借りる人は笑いが止まらない。この時期に買い叩いて不動産を銀行から借りた資金で購入する。時期を見て転売する。その差額で儲ける。といった、仕組みです。政府は借金が目減りするので、インフレ大歓迎といったところです。今回、コロナ禍で国民に、お金をばらまく、おおぴらにお金を印刷して、日本の円の価値を下げるわけです。しかし、国際的にみても、お金をばらまいており、特に、アメリカは100兆円近く行っております。したがって、ドル安、円高が続いており、そのことは、輸入品は安く、輸出が困難ということになります。だから、この際、貧富の差を縮小するために、もっと、お金を印刷して、ばらまき、国民の購買力を高め、お金の動きを活発化させ、景気を回復させることです。

